

下総玩具創始者 松本節太郎さん

100歳記念個展

素朴な味わいの「下総玩具」の創始者・松本節太郎さん(柏市根戸)の満百歳を記念する「100歳の個展」が、六日から柏市旭町の「ギャラリー ヌーベル本店」で開かれる。「いまでも精力的に創作に打ち込む松本さんの集大成を」とギャラリー経営者らが計画したもので、初期の作品から近作まで約四百点が展示される。

ギャラリー経営者らが企画

松本さんは一九〇三年一月、粘土を使って人形作りを始め、東京下谷の染物屋の四男としてた。

生れた。四十代ごろまで職を 七福神やダルマ、お面などを転々としたが、四五年に戦災で 作っては、千葉の郷土人形と分柏に疎開後、裏山で掘り出した かるように「下総玩具」と名付

6日から柏で



けて浅草などの縁日で売り歩いた。次第に郷土玩具として全国に知られるようになり、百科事典にも紹介されるようになった。

「下総玩具」は、土を手でひねる「手びねり」で作られる。土人形の形ができると天目干しし、絵の具で顔を描いて仕上げる。半面に顔を描き、竹ぐしを刺し、さらに、わら束に刺して柱や壁などに下げる「下総首人形」が代表的だ。

作品は、西遊記や十二支、七福神、動物、水戸街道を往来した人々の風俗など様々。どれも見た人がほほえむような童顔で、鮮やかに彩られている。

松本さんは三年ほど前、後継者難と高齢を理由に引退も考えたという。しかし、今は「全国に根強いファンを持つ下総玩具を少しでも長く作りたい」と、来年の千支の申の張り子づくりに取り組んでいる。

個展は二十三日までの午前十一時―午後七時(水曜定休)。入場無料。問い合わせは同ギャラリー(04・7146・6800)へ。

松本節太郎さんと、素朴な味わいの下総玩具